ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION 全酪連会報

第67年度（平成28年度）
通常総会開催される

第45回
全国酪農青年女性酪農発表大会❶

若手後継者の本音／池田祐太さん

酪農トピックス／福島県酪農業協同組合 前組合長 但野忠義氏 旭日双光章受章祝賀会開催される（仙台）ほか

日本酪農見て歩紀（静岡県掛川市 萩原俊之牧場）

人事異動

8

2016 August No.611

全国酪農業協同組合連合会

第67年度（平成28年度）

通常総会開催される

本会は、7月28日㈭、TKPガーデンシティ品川（東京都港区高輪）において、第67年度通常総会を開催し、平成27年度の事業実績、剰余金処分案、平成28年度の事業計画案、農協法改正に伴う定款変更等の承認を得るとともに、役員の補欠選任を諮った。

▲ 総会風景

午後12時30分、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参集に対して謝意を表した。

はじめに、4月に発生した熊本地震について

「熊本地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興を願っている。

また、全国酪農協会、日本ホルスタイン登録協会、日本酪農政治連盟、本会の4団体で起ち上げた被災地への義捐金活動については、会員並びに、多くの関係者の皆様から、多大なるご厚情をいただき、深く御礼申し上げる。」

そして、酪農情勢については、

▲ 砂金会長

「今更申し上げるまでもなく、我が国の酪農情勢は非常に厳しい状況が続いている。平成27年度の生乳生産量は、3年ぶりに増産に転じたが、乳牛頭数、酪農家戸数の減少に歯止めはかかっていない。

また、個々の経営に目を向けても、生産資材コストの上昇は落ち着いているが、初妊牛価格の高騰や、黒毛和種の交配率の上昇などで、後継牛の確保に支障をきたしている。

さらにはTPP問題等により、多くの酪農家が将来に不安を抱いており、生産基盤の縮小が、依然として懸案事項となっている。

このように長期化する厳しい酪農情勢を打開するために、全酪連として何ができるか、考えを巡らせているところだ。」と述べた。

続いて、本会の事業実績・計画関係については、

「平成28年度事業計画において、搾乳後継牛の確保や、酪農家戸数維持への取り組みに重点を置くことで、引き続き生産基盤の維持・強化に向けた諸施策を推進してまいる所存である。

平成27年度の実績は、最終的な税引前当期利益は、約9千8百万円と計画を下回る結果となった。本会が所有する土地の価格下落に伴い、会計基準に沿った固定資産の減損処理を実施する必要が生じたことが、大きな要因となっている。

このことにより、事業高配当は見送ることと致すので、何卒ご理解いただきたい。」と述べ、開会の挨拶を終えた。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・松本 平 課長、農林中央金庫・山田秀顕常務理事をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人全国酪農協会等関係団体から多数

通常総会開催される

のご臨席をいただいた。

そして、来賓挨拶の中で農林水産省の松本課長は、

「熊本地震に際しては、貴連合会をはじめ、関係者の方々から厚い支援を賜ったことについて、改めて御礼申し上げる。

7月下旬に熊本の被災地に入り、現場を拝見した。熊本県酪連の隈部会長をはじめ関係者の方々も、皆様からのご厚情・ご支援に対して厚く御礼をされていたことを、この場を借りて、ご報告させていただきたい。

発災から3か月以上経ったが、被災に遭われた酪農家の方々にもお話しを伺ったところ、『ようやく、がれきの除去などが始められる段階になった。年内に向け何とか経営を再開できるように、計画的な導入再開をやっていきたい。』という力強い言葉もいただいた。乳業施設関係についても、いち早く関係連合会の方々にご尽力いただいたこともあり、少ない生乳廃棄だけで通常の稼働になったという報告を受けた。

▲ 農水省　松本課長

ひとえに、これは関係者の皆様方の、迅速なご対応と、連携をとった取組みの賜物と感じている。

平成27年度の生乳生産の動向は、生産としては3年ぶりのプラス基調に入ったが、足元・全般から見るとなかなか厳しい均衡基調の状況である。やはり安定的に供給をしていくためには、酪農生産基盤の強化、あとは生産についてなるべく上乗せをしていくことの必要を改めて感じているところだ。

また、一方で規制改革では、6月2日に閣議決定された実施計画において、指定団体制度の可否と、補給金の供給の対象の在り方を含めた抜本的な見直しを行うことが課題である。今秋に向けて議論を進めていくところだが、私が検討している考え方としては、大きく2つ整備している。

ひとつは、酪農家の方々の所得の向上と、再生産可能な状態にするために、どのような仕組が必要なのかということ。もうひとつは、生産現場では克服できない様々な課題を、加工・流通含めて乳業全体の中でどのような見直し・合理化ができるのかを、併せて検討する必要があるということだ。

あとは、酪農生産基盤への取り組みを強化していく必要があると思っている。昨今、生産基盤について、いろいろな取り組みが行われているところだが、原点として、粗飼料の供給の在り方、後継牛の育成の在り方について、進めていこうと思っている。

課題は山積だが、幅広い関係者の方々からご意見を伺いながら、ひとつひとつ課題を解決していきたい。」と述べられた。

また、農林中央金庫の山田常務理事は、

「熊本地震で被災された方にお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げる。

担い手不足・人手不足のなか、生乳生産量の減少に歯止めをかけるべく生産基盤対策は喫緊の課題となっている。貴連合会は、前年度より搾乳後継牛の確保を最重要施策とする第十次中期事業計画をスタートさせ、その取組みの一つとして、福島県で若齢預託牧場事業を開始されるなど、酪農協系統の全国団体として生産基盤対策に注力され、酪農業の維持・発展に大きく貢献するものとされている。

▲ 農林中金　山田常務

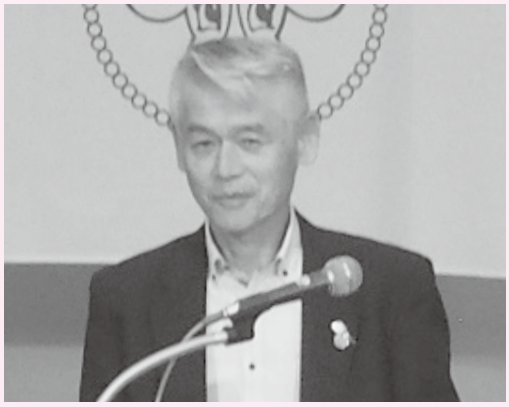
さらに、政府の規制改革会議において指定団体制度の見直しが議論されており、今後、酪農業界は変革のときを迎え、従来以上に貴連合会がリーダーシップを発揮され

ることが求められているものと認識している。

当金庫といたしましても、系統金融機関として、酪農協系統の振興に向けた金融対応や酪農関係団体の経営改善の取組みのご支援など、全面的に貴連合会の取組みを支援させていただく所存である。」と述べられた。

この後、石川正美氏（栃木県酪農業協同組合・代表理事組合長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。

また、第６号議案「役員の選任に関する件」において、補欠選任を行い、新たに役員を選任した。



▲ 議長　石川組合長

平成２７年度事業実績及び平成２８年度事業計画

（単位：百万円）

科　目	平成27年度実績 ①	平成28年度計画 ②	②/①対比
酪農事業（取扱金額）	11,184	10,543	94%
購買事業（取扱金額）	78,150	75,305	96%
総取扱金額	89,333	85,848	96%
事業総利益	10,773	10,788	100%
販売費用	7,431	7,415	100%
事業管理費	3,079	3,093	100%
事業利益	262	279	106%
事業外収益	1,084	992	92%
事業外費用	681	716	105%
経常利益	665	555	83%
特別利益	73	2	3%
特別損失	640	124	19%
税引前当期利益	98	433	442%

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

新役員紹介

第６号議案「役員の選任に関する件」において、吉田孝壽副会長理事と眞坂圭一理事、和氣茂太理事の退任に伴う補欠選任が行われ、隈部 洋 氏（熊本県酪農業協同組合連合会・代表理事会長）と、河野 仁 氏（愛媛県酪農業協同組合連合会・代表理事会長）、武藤清隆氏（釧路丹頂農業協同組合・代表理事組合長）が理事として新しく選任された。

また、総会終了後の第４９３回理事会において、小湊 保 氏が副会長理事に選任された。

●副会長理事
小湊　保
中春別農業協同組合
非常勤

●理事（新任）
隈部　洋
熊本県酪農業協同組合連合会
非常勤

●理事（新任）
河野　仁
愛媛県酪農業協同組合連合会
非常勤

●理事（新任）
武藤　清隆
釧路丹頂農業協同組合
非常勤

砂金甚太郎会長の旭日中綬章受章記念祝賀会を開催

▶ 砂金会長の謝辞

7月28日㈭、本会の通常総会開催後、東京都港区のTKPガーデンシティ品川の「ボールルーム」にて、本会と一般社団法人酪農ヘルパー全国協会、一般社団法人全国畜産配合飼料価格安定基金との共催により、砂金会長の旭日中綬章受章記念祝賀会を開催いたしました。

当日は会員、関係団体、取引先等からおよそ200人の出席があり、主催者を代表して本会の大槻和夫副会長による開会の挨拶に続き、衆議院議員の小野寺五典先生、農林水産省大臣官房の荒川隆官房長、農林中央金庫の宮園雅敬代表理事副理事長からご祝辞をいただき、一般社団法人Jミルクの宮原道夫会長による乾杯の御発声で祝宴が始まりました。

祝宴の中で砂金会長からお礼のことばとして、今回の受章についてはひとえにここにお集まりの酪農・乳業界の皆様のお力添えの賜物であり、人との出会いに恵まれこの出会いは一生の宝であること、また依然として厳しい酪農業界にあって、若い世代が案ずることなく携われる酪農にすることが自身の夢であり、残された人生、役職をこの章に恥じないよう精一杯努めていく所存であるとの謝辞が述べられました。

会場は終始、叙勲を祝う和やかな雰囲気で包まれ、最後は本会の佐々木勲代表監事による閉会のことばで幕を閉じました。

当日はご多忙の中、会員を始め多くの方々にご臨席を賜りましたことを、ここに改めて御礼申し上げます。

▲ 歓談風景

▲ 牛乳で乾杯

▶ (一社)Jミルク
宮原会長の
乾杯挨拶

◀ 小野寺五典衆議院議員の
ご祝辞

▲ 大槻副会長の開会挨拶

▶ 佐々木代表監事による
閉会あいさつ

▶ 農林水産省
荒川官房長のご祝辞

◀ 農林中央金庫
宮下副理事長のご祝辞

第45回 全国酪農青年女性酪農発表大会①

酪農経営発表の部

芹川 恵介さん(九州会議)が農林水産大臣賞を受賞!!
森 富士樹さん(中部会議)が審査委員長特別賞を受賞!!

▲ 会場全体の様子

7月14日㈭～15日㈮の両日、愛知県名古屋市「名古屋東急ホテル」において全国の酪農生産者および関係者約520人が参集し、「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。

大会1日目、小笠原和美監事の総合司会、小森崇宏副委員長による開会宣言で開会、林浩太郎監事による綱領唱和につづき、主催者として全国酪農青年女性会議・半澤善幸委員長と本会・砂金甚太郎代表理事会長から挨拶がありました。

まず初めに、全国酪農青年女性会議 半澤委員長より、主催者挨拶が述べられました。

「本日は、晴れやかでいい天気となりました。このような中、愛知県名古屋市におきまして第45回全国酪農青年女性酪農発表大会を開催するに当たりまして、最初の挨拶として何点か言葉を述べさせていただきます。

まず始めに、この大会にあたりまして地元愛知県、名古屋市、関係機関の皆々様におかれましては大変貴重な時間とお力添えをいただきまして、この大会がこの時間までこれたこと感謝申し上げます。また今日発表される酪農経営発表の部6名酪農意見・体験発表の部6名の審査にあたる先生方、またその発表に携わっていただいた関係団体の事務局の皆様におかれましても大変ご苦労をなさったことと思います。感謝を申し上げます。

▲ 全国酪農青年女性会議 半澤委員長

さて、わたくしがいまさら酪農情勢をいう事は必要はないかもしれませんが、牛乳の生産情勢は少しだけ全国的にプラスとなりました。

それは皆様方の日頃の牛を管理して牛乳を搾るという毎日の作業の積み重ね生産を前年対比プラスという事でもっていくこ

とができたと思っております。

しかしながら将来をみますと、後継乳の不足や餌の不安定要素の事やＴＰＰの事が皆様方の頭には必ずあるかと思います。

今、私たちが将来安定的に生乳生産を行っていくために、今、何をしなくてはならないか、この大会を開催するに当たりまして私は考えておりました。さきほど、林監事より統一綱領を唱和いたしましたが、まさに原点に返り、この統一綱領に書かれている通り、毎日の仕事に研鑽し、進歩して豊かな酪農の生活を社会を作っていくことが大事だと思っております。それにプラスをしまして、今、酪農情勢は過去数年間の中では非常に良いと思っています。

それは実際、生乳の状況だけでなく個体販売の状況がその裏付けとなっているからです。今、これから5年後、10年後、20年後に日本の酪農が今の生産量をきちんと維持し、安定的に日本国民に牛乳を提供するためには、先ほどの統一綱領の他に、人、物、技術に皆さんこれから投資をしてください。”人“が未来を創るきっかけになり、”物“が生産を生み出す器になります。

またそれを裏付ける”技術“に関しては、今、国を始め色々な研究団体が、判別精液、受精卵の技術遺伝子の回折等において非常にレベルの高い技術を有しております。皆様方の経営にこれらの技術を取り入れながら、生産効率を上げていただき、今大会がわが国の酪農の更なる発展のきっかけになればと思っています。今日発表される12名の方々は各地区から選抜された素晴らしい発表をされる方々でございます。その発表から得るもの、また今日ご参加の酪友の皆様方の交流を通して、明日につながる何か良い事があったと思える全国大会になればと思います。今日と明日の二日間、この暑い名古屋の地で将来の酪農について熱く語れるような大会にしていきたいと主催者一同願っております。」

続いて砂金会長より、挨拶が述べられました。

「全国から大勢の酪友にご参集いただき、全国酪農青年女性会議とともに、第45回全国酪農青年女性酪農発表大会を、ここに開催できますことを、大変うれしく思う次第です。さて、昨今の酪農情勢につきましては、皆様方日々感じられているとおり、経営面の厳しさだけではなく、心理的にも不安を感じさせる状況が続いております。そのことが、酪農家戸数の減少につながっていると考える次第であります。しかしながら、先人たちは、日本の酪農に対する様々な課題を、ひとつひとつ乗り越えて参りました。我々も、この困難を乗り越え、後継者が希望をもって経営継承できるような環境作りに努めていかなければならない、と思ってございます。そのことが、国民に安全安心な国産牛乳を提供することにつながるとともに、我々も、酪農という自分たちの仕事に対して誇りを持つことにもつながると信じております。さて皆さん、本日は昨年の東京大会から一年ぶりの再会です。日頃会うことがなかなかかなわない全国の仲間たちと、大いに語り合うことができる絶好の機会であります。今日明日と、本大会の開催を通じて得られたものが、必ずや皆様方の明日からの活力となりますことを、心よりご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。」

▲ 全酪連 砂金代表理事会長

続いて、農林水産省生産局 畜産部畜産企画課 課長補佐 古庄 宏忠より祝辞が述べられました。

「本日ここに、第45回全国酪農青年女性酪農発表大会の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。まずはじめに、先般の熊本地震で被災された方々やそのご家族、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、全国から選ばれました発表者の皆様方に対しまして、心からお祝いを申し上げますとともに、本大会を主催する、全国酪農業

協同組合連合会を始めとする関係者の皆様方に対しましては、我が国酪農の振興に日々御ご尽力賜っておりますことに深く敬意を表する次第です。

さて、最近の我が国酪農をめぐる情勢につきましては、酪農戸数や飼養頭数の減少が続いているものの、関係する皆様の取組が功を奏し、平成27年度の生乳生産量3年振りの増産となったところです。また、牛乳乳製品の消費を見てみますと、27年度は減少傾向が続いていた牛乳の消費が12年ぶりに前年度を上回り、さらにチーズの消費が過去最高となるなど、国民の牛乳乳製品に対する需要に明るい兆しが見られるところです。さらに、牛乳乳製品の輸入につきましては、ベトナム、台湾、香港などの近隣国を中心に、粉ミルクやLL牛乳などが順調に伸びており、昨年の輸出額は約96億円に達しました。この輸出額を32年度までに145億円とする目標を掲げ、輸出拡大に向けた取組を進めております。このような機会を据え、農林水産省としましては、さらなる生産基盤の強化に向けた関係者の皆様の取組を力強く後押しするため、畜産クラスター事業による地域ぐるみでの収益力強化のための取組への支援をはじめとする各般の施策を包括的に推進してまいりたいと考えております。酪農家の皆様におかれましては、自給飼料の生産・利用の拡大や省力化機械の導入など、生産性の向上に積極的に取り組んでいただくとともに、本年は特に猛暑が予想されていますので、乳牛のみならず働く皆様方にも十分な熱中対策をお願いしたいと思います。本大会は全国の酪農家の研鑽と交流を図るための大変貴重な機会であり、本日ご紹介いただく若い担い手や女性の方々の優れた取組は、経営・生産技術・地域活動への貢献等に関する重要な手本になると考えています。特にこれから我が国酪農を担っていく若い方々が本日の発表に倣い、夢と希望を持って、生産性が高く豊かでゆとりのある酪農経営の実現に向かって取り組まれることを期待しております。

▲ 農林水産省 古庄課長補佐

結びに、本大会が多大な成果を収め、我が国酪農の益々の発展に寄与することを大いに御期待申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展とご健勝を心より記念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。」

次に、愛知県農林水産部畜産課課長 澤嵜 裕是氏の祝辞が述べられました。

「皆様、ようこそ！愛知へお出でいただき、ありがとうございます。

このたび、「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」がこのあいちで盛大に開催されますこと、たいへん光栄に感じるとともに、半澤委員長はじめ、砂金会長ほか、関係の皆様方に対して、御礼申し上げます。

また、本日ご参加の皆様方におかれましては、愛知をはじめ、全国の消費者の方々に向け、毎日のたいへんな搾乳作業を通じて栄養たっぷりの牛乳を提供いただいておりますこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

▲ 愛知県 澤嵜課長

さて、愛知は、自動車・航空機産業などの工業県というイメージが強いと思いますが、実は、酪農も大変盛んで、直近の統計によりますと、酪農の農家戸数、飼養頭数及び生乳生産量は、全国第7位に位置しております。また、本県の農業産出額は、全国の3番手グループに位置しておりますが、その中で酪農は、約7％を占める主要な部門の一つでもあります。

しかしながら、全国同様、従事者

の高齢化や、飼料及び環境対策などの生産に係る経費が増加していることに加え、近年の初妊牛取引価格の高騰は、廃業や飼養頭数減少の要因となっており、生乳の生産基盤の弱体化が危惧されております。

こうした中、国においては生乳生産基盤の回復に向けた取組支援をいただいているところでありますが、本県におきましても乳用めす牛をしっかりと確保することを酪農対策の根幹の取組として、私が先頭となって推進しているところであります。

また、こうした生産基盤を担うのは、「人」であり、まさに本日ご参加の皆様方なくしては、生産基盤の回復はもとより、酪農の存続はないと考えております。

皆様方におかれましては、それぞれの経営の中で、苦しい時、悲しい時、つらい時など様々なご苦労に遭遇することと察しますが、そうした時、力になってくれるのは、他ならぬ同じ苦労をしている仲間であります。

この大会では、全国各地域から推薦された酪農の優秀な経営の成果発表に基づき、有益な意見交換が行われると聞いております。こうした発表内容を積極的に自分の経営に取り入れて、「稼ぐ力」を身に付けてＴＰＰをはじめとする今後のグローバル化への対応にしっかりと準備を進めるとともに、多くの仲間と酪農に対する思いを共有していただきたいと考えております。

また、夜には、懇親会が開催されるそうですが、ぜひとも「みそかつ」や「名古屋コーチン」など、あいちの畜産物由来の「名古屋めし」をお召しになりながら、暑い名古屋の夜を熱い思いで盛り上がっていただきたいと願っております。

最後になりますが、日本の酪農業の安定的発展及び生産性の高い酪農経営の確立と、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。」

開会式終了後、各地域の代表者6名による酪農経営発表が行われました。

第43回らくのうこどもギャラリーの表彰式を挟んだ後、各地域の代表者

▲ 表彰式の様子

▲ こどもギャラリー特選の岩谷 龍さん

6名による酪農意見・体験発表をもって1日目の行程を終了しました。

2日目には、第7回酪農いきいきフォトコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的として開催しており、各地域より厳選された応募作品40点を全国大会で掲示しました。参加者投票による審査の結果、関東甲信越酪農青年女性会議 吉田尚子さんの作品が見事「特選」に選ばれました（本号表紙掲載）。

続いて来場者から両部門発表者への質疑応答、審査講評・表彰が行われ、小薗千弘副委員長による大会宣言朗読の後、引頭玉枝副委員長による閉会の辞をもって全日程を終了しました。

酪農経営発表の部の最優秀賞には九州酪農青年女性会議代表の芹川恵介さん、酪農意見・体験発表の部の最優秀賞には北海道酪農青年女性会議代表の芳賀ひとみさん、審査員長特別賞には中部酪農青年女性会議代表の森冨士樹さんが選ばれました。

酪農経営発表の部 審査講評

東北大学大学院農学研究科教授
伊藤 房雄 審査委員長

審査委員を代表して講評ならびに審査結果を報告させていただきます。審査に当たりましては、酪農経営の収益性、経営の安定性・発展性、飼養管理技術水準、資源循環型酪農の実践、食品の安全性への配慮、組合・地域活動の貢献という6つの大会審査基準に基づき、厳正な審査を行いました。なお、今年度から、6次産業化など新たな取組による経営の発展性という基準を経営の安定性・発展性の中に取り入れております。

さて、今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる立地条件の中で、地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新技術を導入し、酪農経営の安定性と収益性の確保に努力しているだけでなく、自給飼料の確保、堆肥の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいる様子をうかがい知ることができ、審査委員一同大いに感銘をうけました。

それでは、審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期待したい点について、発表順に申し上げます。

仲間・家族・そして牛と共に歩む酪農

東北酪農青年女性会議
八巻 誠さん

宮城県大崎市古川にある八巻牧場は、従業員を一名雇用しながらも、基本的にはご両親とともに、経産牛49頭、哺育・育成牛44頭を飼育する家族経営です。古川は宮城県を代表する水田地帯であることから、転作田等に恵まれ、自宅から半径5km以内に4haのデントコーン畑と28haの牧草地を有しています。これにより粗飼料自給率100%を実現するとともに、堆肥もすべて地域の農地に還元しています。八巻牧場の最大の特色は、かつて法定伝染病の発生により大変苦労した経験があることから後継牛の外部導入を止め、すべて自家育成に徹している点にあります。これにより牛群改良の成果が実感できるようになり、最近では雌雄判別精液を活用することで後継牛の確保が一層容易になっております。

経営主の八巻誠さんは現在39歳ですが、若くして結婚されたこともあり、来春後継者が高校を卒業して就農する予定とのこと。このため今後は牛群検定に加入して個体管理を充実させるとともに、牛舎を増改築して規模拡大を図る予定です。また、和牛体外受精卵移植にも取り組み、所得の向上と経営の安定化を目指そうとしています。ご両親もまだ60代前半ですので、三世代による堅実な自給飼料依存型の酪農を展開されることを期待しております。

我が家の伝統とともに未来へ！
～継続は力なり～

北海道酪農青年女性会議
秋葉 直美さん

オホーツク海に面した小清水町に立地する酪農と畑作の複合経営を営む秋葉牧場では、お父さんが畑作作業全般を担当、直美さんが酪農作業全般を担当、ご主人は搾乳や除糞作業のほかＴＭＲセンターに出役しております。直美さんは、酪農後継者としてご両親から酪農の基本を学び、帯広畜産大学を卒業後、就農されました。現在の乳牛飼養頭数は経産牛76頭、哺育・育成牛64頭で、飼料基盤はデントコーン約10ha、採草地約24haを有し、粗飼料自給率は98％とほぼ完全自給を実現しております。秋葉牧場の特色は、牛群検定による個体管理とともに牛の観察、こまめな記帳、定期的な代謝プロファイル検査や検診による繁殖管理と疾病の早期発見、治療等々、ご両親から受け継いだ酪農の基本技術をしっかりと実践していることにあります。それとともに、ＴＭＲセンターを最大限活用して省力化を図り、高い生産性を実現している点にあります。ＴＭＲセンターを活用しながら規模拡大を図っていく姿は、ほかの発表事例にもありますが、これから全国各地で広範に展開されるビジネスモデルでもあります。

今後は、畜産クラスター事業を活用して、フリーストール牛舎を新築するとともに搾乳ロボットを導入して規模拡大を図っていくとのこと。それにより、いままでとは違った飼養管理技術の習得や緻密な財務管理の履行が求められてきますが、これまで培って来た関係機関等との情報交換を一層蜜にして、夫婦二人で乗り越え、地域のモデル牧場となっていくことを期待しております。

酪農の魅力「ゆとり」を作り出す酪農経営

九州酪農青年女性会議
芹川 恵介さん

九州では本年4月14日夜および16日未明に最大震度7を記録する直下型の地震が発生し、熊本、大分両県に甚大な被害をもたらしました。株式会社ＫＲＳ芹川牧場が立地する熊本県菊池市は、震源地から幾分離れていたとは言え震度5強を観測し、芹川牧場でも牛舎が傾くなどの被害がありました。今回の熊本地震で甚大な被害に遭われた牧場ならびにすべての被災者に、お見舞いを申し上げるとともに、一日も早い回復を祈念しております。

さて、芹川牧場は、経営主である恵介さん夫婦と恵介さんの弟さん、ご両親の5名からなる法人経営です。現在の飼養頭数は、経産牛82頭、哺乳・育成牛50頭、そして19haの農地を所有しております。芹川牧場の特色は、時間にゆとりをもって収入も確保できる酪農、すなわち「作業の効率化」と「経営の効率化」の両立を目標に、様々な先進技術や先端システムを導入し、それらを活用している点にあります。そのために、群分けによる牛の体調管理や哺乳ロボット、餌寄せロボット等を導入して省力化を図ってきました。また、自らも含め地元酪農家が出資して設立したＴＭＲセンターを積極的に活用し、家族労働に大きなゆとりを生み出しております。さらには、地元の青年部や同志会にも主体的に参加するとともに、non-GMO生乳を生産している関係から消費者との交流にも熱心に取り組んでおります。

今後は、搾乳ロボットを導入して規模拡大を図りながら、家族以外の人でも働きたいと思える牧場の実現を目指しているとのこと。芹川牧場ではきっと、そのような目標が遠くない将来に実現するであろうと心より期待しております。

父からの継承と更なる飛躍を目指して

関東甲信越酪農青年女性会議
駒場 靖史さん

宇都宮市内で都市近郊酪農を営む駒場牧場は、経営主の駒場靖史さん夫婦とご両親の4名の労働力からなる家族経営です。現在の飼養頭数は、経産牛71頭、育成牛43頭、自給飼料生産はデントコーン9・5ha、イタリアンと麦の混播4haです。自宅から半径4km圏内に点在する30a未満の畑を集積して粗飼料自給率の向上に努めている姿は称賛に値します。

大学卒業後、祖父と父が築いた牧場を絶やすのは申し訳ないと感じ、牧場を継承すると決心した靖史さんは、北海道と米国での3年半にわたる研修の後、26歳で就農しました。それから8年、父親の偉大さを感じながらも靖史さんは、様々な科学的知見に基づきながら「いかに牛にストレスを与えずに効率的な生乳生産ができるのか」を追求してきました。暑熱対策はもちろんのこと、牛群検定の成績を読みこなし、バルク乳スクリーニング検査や個体抗生物質感受性検査などの乳房炎防除対策、代謝プロファイル検査の実施や定期的な繁殖検診の取組などがそれです。それとともに、駒場牧場では長命連産を目指し、乳房と肢を重視した個体改良にも熱心に取り組んでいます。さらには、地元のグリーンツーリズムの取組とも連携し、酪農理解醸成活動にも積極的です。

今後は、立地条件や現在の労働力から無理な増頭はせず、カウコンフォートの強化による生産性向上と長命連産の牛づくり、そして消費者との交流を促進させたいと考えているようです。堅実な経営目標に好感を持てました。

4世代による酪農経営に向けて

西日本酪農青年女性会議
楠 亮さん

急峻な山々に囲まれた愛媛県西予市野村の山あいに立地する楠牧場は、昭和23年に一頭の乳牛を導入したことから始まりました。楠家は、酪農を始めた祖父母が今もご健在で、ご両親と亮さん夫婦、3人の子供たちからなる4世代家族です。現在の飼養頭数は経産牛43頭、育成牛20頭、労働力は亮さんとご両親の3名からなる家族経営です。自宅に併設する対頭式20頭牛舎を大事に使いながら、工夫を重ねて規模拡大を図ってきた楠牧場に転機が訪れたのは平成26年のこと。同じ集落に住む同世代の酪農仲間が離農することになり、築8年40頭規模のフリーバーン牛舎とパーラー施設を買い取りました。移転に伴う様々な苦労を乗り越えてきた楠牧場の特色は、後継牛をすべて自家育成で確保するとともに、肢腰の強い長命連産の牛づくりに励んでいること、農地を集積する条件が厳しいなかで出来る限り粗飼料自給率を向上させようと努力していること、牛群検定の成績を活用しながら良質の生乳生産の実現に努めていること、等々であります。

今後は、現在の牛舎の隣に哺育・育成舎を増築するとともに、地元の粗飼料生産組合やコントラクターを活用して更なる自給飼料率向上とコスト削減を図り、併せて家族との時間を共有するため、ゆとりある酪農経営を目指していきたいとのこと。そのためにも、決して急ぐ必要はありませんが、現在ご両親が担当している簿記会計や生乳管理チェックを自らのものとしていくことが必要であろうと期待しております。

この時間も牛たちは搾乳されています

中部酪農青年女性会議
森 富士樹さん

愛知県新城市作手の中山間に立地する有限会社大東牧場は、経営主の富士樹さん夫婦とご両親、それに常時雇用の外国人一名を労働力とし、経産牛121頭、育成牛129頭を飼養する法人経営です。富士樹さんは中学のときに就農の意思をご両親に伝え、帯広畜産大学に進学、卒業後に就農、北海道とドイツでの研修でパソコンによる個体管理や人工授精、搾乳ロボット等々のたくさんの技術と技能を習得しました。この間ご両親は時代の先と富士樹さんの将来を見通し、フリーストール、ミルキングパーラーを導入するとともに、家族経営から法人経営への移行、ジェラートの製造販売を行うミルク工房を設立します。

今日の大東牧場、すなわち森さんの酪農経営の特色は、なんと言っても搾乳ロボットをはじめ哺乳ロボット、自動給餌機、等々の先端技術をいち早く取り入れ、試行錯誤しながら、換言するならばPDCAサイクルを繰り返しながら、それらを自らの技術として確立している点にあります。また縦型コンポストにみられるように、生産現場の課題解決に向けた創意工夫に長けている点も特色の一つかと思われます。なお、今大会で森さんが発表してくれた搾乳ロボットの経済評価はきわめて貴重なデータであります。これから搾乳ロボットの導入を考えている多くの酪農家、関係機関、関係団体の方々にとって、非常に有益な情報を提供していただいたものと高く評価しております。

今後については、搾乳ロボットの活用にまだ伸びしろがあるということですから、さらなる独自の仮説検証とPDCAサイクルの履行を推進していただき、これまで以上のゆとりと収益性、効率性を実現するビジネスモデルを構築していただきたいと期待しております。

以上、今回の発表者6名の経営は、いずれも各地域を代表する優れた経営でありますので、その優劣を判断することは容易ではありませんでした。その中で、どのような基準に重きを置いて評価をすればよいのか、審査員一同大いに悩み、議論を重ねました。儲かる酪農、収益性と生産性の高い酪農はもちろん必須です。経営の安定性、発展性の重要性は言うまでもありません。衛生的で高品質な生乳生産はもとより、自給飼料依存度が高く、資源循環型酪農を実践していることも大切です。そして、次世代の担い手にとって、ゆとりある酪農を実現している経営は魅力的です。しかし、それらと同等ないしはそれ以上に重要と思われる要素が、高い収益性と発展性を担保する先進技術の習得と活用です。特に、日本酪農を取り巻く外部環境と経営資源が大きく変化しようしている今日、環境の変化に適応しながら生き残り、発展していくためには、一日も早く新たな技術・技能を自らのものとすることが不可欠であります。この点については誰しもが納得されることでしょう。

今回の審査では、以上の多面的な評価基準を総合的に勘案し、九州酪農青年女性会議の芹川恵介さんの経営を最優秀とさせていただきました。

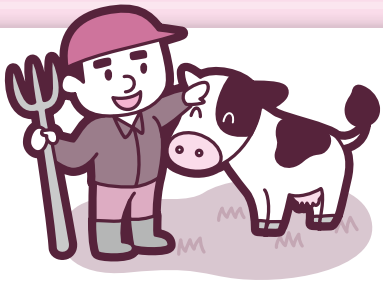
なお、厳しい立地条件にもかかわらず、地域内外の自給飼料を積極的に活用するとともに、搾乳ロボットをいち早く自らの基本技術として習得し、省力的規模拡大を実現している中部酪農青年女性会議の森富士樹さんに審査員長特別賞を授与することとさせていただきました。森さんの取組が今後搾乳ロボットの導入を考えている多くの酪友に大いに参考になると考えられるからです。

最後に、会場にお越しの皆様におかれましては、6名の方々の発表をお持ち帰りいただき、それぞれの経営や地域の酪農発展のためにご活用していただければ幸いに存じます。

以上で、講評ならびに審査結果の発表を終わらせいただきます。

（酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します）

来年は、7月13日㈭～14日㈮に北海道札幌市「東京ドームホテル札幌」にて開催予定となっております。来年も、皆さまにお会いできることを楽しみにしております。



若手後継者の本音 Vol.21

ホンネ

▲ 池田祐太さん

家族経営で優良な牛・良質な乳の生産を目指して

今回は、**栃木県那須塩原市 池田牧場**の後継者**池田祐太**さんにお話を伺いました。

[経営概況]

所　　属　栃木県酪農業協同組合（石川正美代表理事組合長）
家族構成　祐太さん、両親、祖母、妻、子供
飼養頭数　経産牛70頭、未経産牛８頭（子牛含む）

今回ご紹介する池田牧場は、栃木県の北部の那須塩原市にあります。那須塩原市は畜産が盛んで生乳生産量は全国4位（本州第1位）と本州最大の酪農地域です。明治時代に日本三大疎水である那須疎水が整備され、明治の元勲や地元有志による農業開拓が行われました。市内には泉質豊かな塩原温泉郷や湯治場として知られる板室温泉など、数々の温泉を有しています。

池田牧場が所属する栃木県酪農業協同組合（石川正美代表理事組合長）は、生乳出荷戸数203戸、年間生乳生産量72,270t（平成27年度）です。池田牧場は、フリーバーン牛舎1棟、乾乳・育成舎1棟で経産牛70頭、未経産牛8頭（子牛含む）を飼養しています。その他に未経産牛40頭を組合の大笹牧場や北海道の牧場に預託しています。

▼ 牛舎全景

労働力はご両親（伝さん、初代さん）、祐太さんの家族3人で、祐太さんが搾乳・哺育・牛床整備を、お父さんが給餌、お母さんが搾乳を担当されています。奥さん（智美さん）は現在2人のお子様の子育てに専念されていますが、ゆくゆくは哺乳を担当されるとのことです。

約9ha（借地7ha）の畑にイタリアン、ライ麦、デントコーンの作付を行っており、近隣の酪農家と共同で作業を行っています。給与体系は自給飼料の他に当会TMR製品（池田牧場専用TMR）を使用した内容となっています。

就農しての感想

地元高校卒業後、北海道農業専門学校（学校法人八紘学園）で主に農業機械について学び、その後那須塩原市にある牧場に勤務し、飼料給餌から搾乳まで経験を積み、平成23年に就農しました。子供の頃から牛舎には出入りしていたので、自然といずれは酪農を継ぐのだなと思っていました。

作業自体は就農するまで経験を積んでいたので難なくこなせていますが、自分の牧場の牛になるので、気の遣い方が違いますね。当たり前ですが、全て自己責任となるので、個体乳量の変化などをこまめに観察し、疾病の早期発見に努めています。

現在哺育も担当しており、子牛が下痢をせず、狙い通りに育った時はうれしいです。就農して5年が経ちますが、結果が出るとやりがいを感じます。

就農して取り組んでいること

搾乳では前搾りからミルカー装着までの時間、ディッピング剤の使用など基本に忠実を

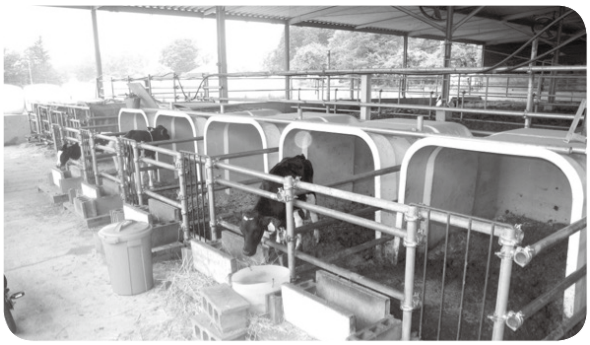
心がけています。以前はディッピング剤をプレとポストで同じ物を使用していましたが、それぞれ専用の物に変えることで、乳頭の荒れが減少しました。また最近、タオルによる乳頭清拭をペーパーに変えました。

子牛はカーフハッチで飼養していますが、カーフハッチで欠点になりやすい清掃について、ハッチの周りを単管パイプで囲み、その中に開閉できる小枠を設けることで、掃除がしやすいように工夫しています。

祐太さんは組合とJAの青年部に所属し、組合青年部主催の共進会への出品や農業祭など各種イベントに精力的に参加され、地域の若手後継者と交流を図られているとのことです。

▲ 搾乳牛舎

▲ 乾乳牛舎



▲ 哺育施設

▲ 堆肥舎

なにか要望はありますか？

今はスモールなど副産物が高いので良いですが、経営の安定継続のためにもう少し乳価を上げて欲しいです。また、組合の酪農ヘルパー要員を増やして、ヘルパーを取り易い環境にしていただきたい。現在、月1回はヘルパーを取り家族全員で休むようにしていますが、今後酪農を継続するためには、乳価もそうですが、今以上に定期的に休みを取れる環境作りが必要と思います。

今後の目標について教えて下さい

家族経営で安定した暮らしを続けることが目標というか希望です。経産牛を約100頭まで増やしていきたいとは考えていますが、基本家族で見られる範囲の頭数で飼っていきたいです。毎年20頭は後継牛を確保し、現在の搾乳牛年間乳量11，000kgを維持し、良質な乳を生産していきたいです。

「自分はクソまじめです！」とおっしゃる祐太さん。お言葉通り非常に真面目で仕事熱心な好青年です。今回快く取材を引き受けていただきまして、感謝申し上げます。池田牧場のますますのご発展をお祈りいたします。

池田さんより 全国の若手後継者の皆さんへ 一言！

皆で酪農業界を
盛り上げていきましょう！

仙台支所発

福島県酪農業協同組合 前組合長 但野忠義氏 旭日双光章受章祝賀会開催される

平成28年度の春の叙勲において旭日双光章を受章した但野忠義氏（福島県酪農業協同組合前代表理事組合長）に対する受章記念祝賀会が、去る7月23日、福島市にて100名を超える参加者の中、開催されました。

発起人代表として福島県酪協 宗像 実代表理事組合長の開会挨拶、福島県知事、根本 匠衆議院議員らの祝辞をいただいた後、福島県畜産振興協会 菅野典雄副会長より但野氏と正子夫人に記念品・花束の贈呈がなされ、全農福島県本部佐藤裕之副本部長の音頭により、牛乳の乾杯で祝宴は始まりました。

但野氏は平成18年より福島県酪協の代表理事組合長を務められ、長きにわたりその重責を担われてましたが、中でもブルセラ病疑似患畜の発生に伴う対応や、東日本大震災・原発事故等幾多の危機が発生する中、原発事故ではご自身も被災されながら酪農家の先頭に立って復興復旧に大きな役割をはたして来られたことに対し、各来賓より賞賛とねぎらいの言葉が祝辞の中で述べられていました。

但野氏は謝辞の中で、『受章は、何より多くの酪農家の熱意が9年間という長きにわたり働かせてくれたことによる。今後は不易流行（いろんなものが流行る中でも変わらないのは食）という言葉を胸に3つの目標を立てた。一つは育成牛舎を立てており、71歳の爺さんが牛を飼うことを今後避難が解除される地域の一時離農者へ伝えていきたい。二つ目は福島県農業会議と組んで福島農業の安全性を全国各地で伝えるべく講演会を実施していきたい。三つ目は地元南相馬市原ノ町区の仲間と農場を展開（現在かぼちゃを栽培中）し、将来的に法人化し食育ファームを作りたい』と、会場の皆さんへのお礼と引き続き厚い情熱をもって今後の決意を述べられました。

▲ 但野忠義前福島県酪代表理事組合長

会場では震災当時、但野氏ご夫妻が県酪本所に避難され、寝泊まりされていた時に奥様がありあわせの材料でおいしいカレーを作って県酪職員にふるまわれたエピソードなどが飛び交い終始なごやかな祝福ムードに包まれた一日となりました。

（S.H）

▲ 祝賀会であいさつをする但野ご夫妻

▲ 祝賀会の様子

本所発

全国酪農青年女性会議から九州応援メッセージ贈呈

7月14日㈭～15日に開催された第45回全国酪農青年女性酪農発表大会会場において、今般の熊本地震で被災した九州の酪友の激励を目的とした「九州応援コーナー」を設けました。

コーナーでは熊本、大分で製造されている牛乳、乳製品の紹介の他、応援メッセージボードを設置し、当日来場された全国の酪友からのたくさんのメッセージを頂くことができました。

▲ 九州応援メッセージコーナー

メッセージボードは、大会懇親会の際に、全国酪農青年女性会議半澤委員長より、九州酪農青年女性会議小薗副委員長に贈呈されました。

メッセージボードを受け取った小薗委員長より全国の酪友の心温まる支援に対し謝辞が述べられ、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

（O.K）

▲ 贈呈風景

本所発

全国農協乳業協会より熊本県酪農業協同組合連合会に義捐金贈呈

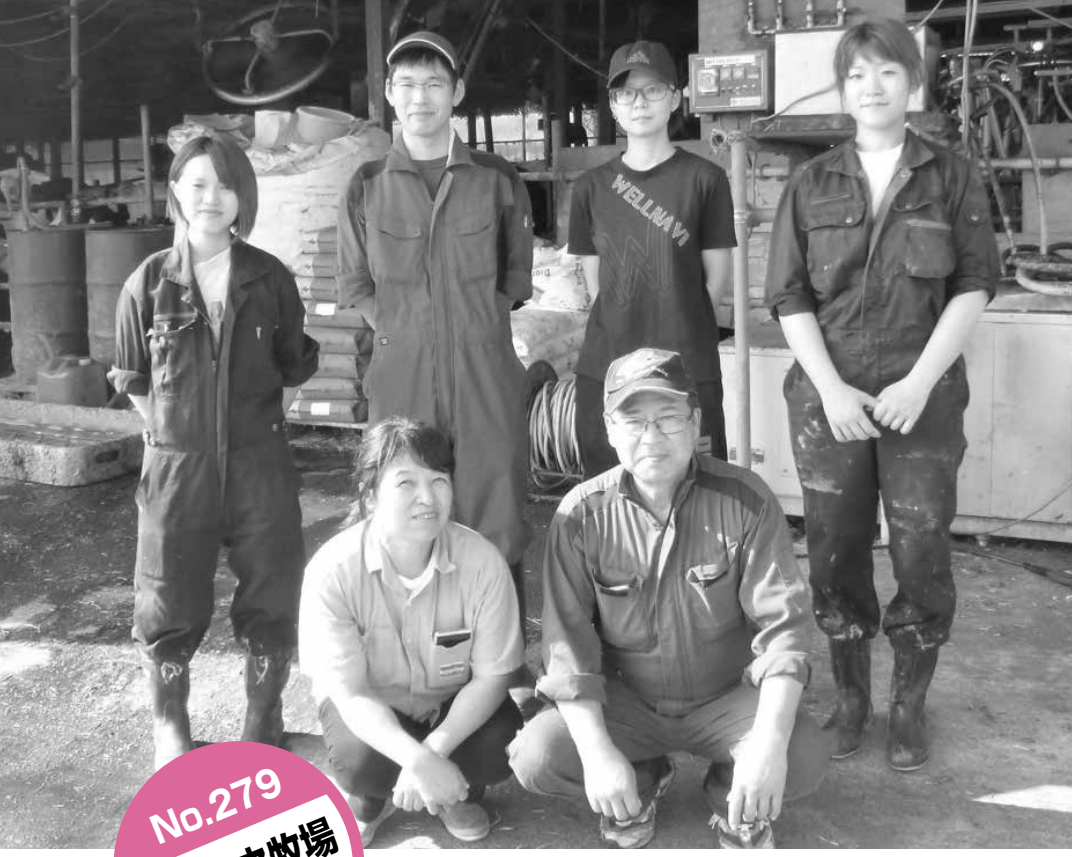
今年度より、本会酪農部で事務受託している全国農協乳業協会（各地の農協系乳業者38会員で構成）の幅田信一郎会長が、7月21日㈭、熊本地震で乳業工場の設備等に大きな被害をうけた同協会会員の熊本県酪農業協同組合連合会（らくのうマザーズ）を訪れ、全国の会員から寄せられた義捐金200万円を同連合会の隈部洋代表理事会長に贈呈した。

隈部会長は、「多くの会員の皆様のご支援に感謝申し上げます」と謝辞を述べ、同席した大川清治代表理事常務とともに、地震後の大変な混乱の中で一日も早く製造を再開すべく、役職員が一丸となって作業にあたったことや、指定団体や全国連から車両等の支援があったおかげで生乳の廃棄を最小限に抑えることができ、酪農組織の団結力に心を打たれたことなど熱く話していた。

現在では、熊本県酪連の乳業工場はほぼ地震前の状態に回復しているが、県内の取引先の一部には店舗を閉鎖しているところもあり、取引の全面回復にはまだ暫く時間がかかる様子であった。

（M.C）

▲ 農プラ義捐金



▲ 萩原俊之さん（前列右）、輝美さん（前列左）と従業員のみなさん

日本酪農

見て歩紀

No.279

萩原俊之牧場

静岡県掛川市

「仲間たちとのTMRセンター利用で省力化・規模拡大」

地域の紹介

今回紹介する萩原俊之牧場は、お茶の産地として有名な静岡県掛川市の遠州灘の海岸近くにあります。この地域は気候も温暖で、温室メロン、ハウスイチゴなどの果物の出荷が多いところです。

萩原牧場の所属する浜名酪農業協同組合（伊藤光男組合長）は、酪農家戸数39戸、年間出荷乳量は15,993トン（いずれも平成27年度）となっています。

▲ 牛舎遠景

経営の概況

萩原牧場の家族構成は、ご主人の俊之さん（58）、奥さんの輝美さん（53）、お母さんとなっています。子供は4人います。長女夫婦は北海道中頓別町で新規就農しました。次女は岐阜県、三女は福岡県にあります。長男は現在、酪農学園大学の学生です。ちなみにお孫さんは5人おり、近く6人目のお孫さんが誕生予定とのことです。

作業分担は、搾乳、堆肥をご主人が、哺乳、搾乳、事務を奥さんが担当しています。現在、従業員4名とパート1名がおり、従業員は作業全般、パートは堆肥、オガコの運搬を担当しています。

現在の飼養頭数は、経産牛131頭、哺育牛7頭で、育成牛12頭については全頭預託しています。

牛舎はフリーバーンで、もどし堆肥を使用しています。

平成27年度の出荷乳量は1,150トン程で、乳質は乳脂肪3・7％、無脂固形分8・65％、

乳蛋白3・1%、体細胞数30万以下となっています。

種付けは、能力の高い牛には雌雄判別精液を使用し、それ以外の牛にはF1を生ませて販売しています。

▲ 搾乳牛

▲ 乾乳牛

▲ 作業中の従業員

萩原牧場のあゆみ

俊之さんのご両親は、以前はタバコ、イチゴ、米を作っていましたが、昭和33年に酪農を開始し、俊之さんが18歳のときに酪農専業となりました。

平成8年につなぎ牛舎から経産牛30頭のフリーバーンに移行し、平成10年に50頭、平成23年に80頭、平成26年には120頭まで増築により規模拡大しました。

そして現在、乾乳牛舎を新築しているところです。

浜名TMRセンターの立ち上げ

平成21年2月、所属する浜名酪農業協同組合がコントラクター事業とTMRセンターを立ち上げることになりました。

萩原さんは、それまで自給飼料を、ご自分の畑40aと共同畑15haで作っていましたが、コントラクター事業により、コントラクターにすべての畑を貸し出し、収穫したデントコーンとソルゴーはTMRセンターの飼料原料とすることになりました。

▲ TMR飼料の運搬車による給餌

▲ コントラクターの管理するデントコーン畑

堆肥についても、萩原さんは近隣の酪農家さんと共同の堆肥舎を持っており、以前は自分で圃場散布や袋詰め販売を行っていましたが、コントラクター事業により、コントラクターが契約圃場への運搬、散布も行うことになり、処理の手間も要らなくなりました。

また、TMRセンターで製造されるTMR飼料は、フリーストール、フリーバーン牛舎を持つ利用者については、毎日給餌車が搬送し牛舎の飼槽に給餌していくことになりました。このTMR飼料には搾乳牛用と乾乳牛用があり、ビタミン、ミネラル類も配合されており、現在萩原牧場はこの飼料のみの給与となっています。

規模拡大の決断

これにより萩原さんは、それまでの牧草作りの作業や、毎日のTMRづくり、給餌作業から解放されることとなりましたが、そのとき萩原さんは、労力が軽減された分、規模拡大に労力を回すことに決めました。当時は、長女夫婦が後継者として家に入る予定もあり、給料を払うためにも規模拡大が必要な状況だったそうです。

萩原さんに、規模拡大の設備投資を決断する際、リスクについて考えたかを聞いたところ、当時は生乳不足でもあり採算も合うと考えたとのことです。また、土地、近隣の問題をクリアできたことも大きかったそうです。思い切ってやってみたらうまく回っていった、とのことです。

どうすれば全国的に規模拡大が

進むと思うかを聞いたところ、「酪農の将来が明るく見えればみな一歩踏み出せるのでは。また、規模拡大に適した場所の確保も大切」とおっしゃっていました。

従業員の雇用

当初は、長女夫婦が後継者として家に入る予定もあり進められた規模拡大でしたが、長女夫婦は結果的には家に入らず、北海道で新規就農することとなりました。そのため、規模拡大であてにしていた労働力が不足する事態となり、急きょ雇用に関するノウハウもないまま従業員を求人することになりました。

個人経営の酪農家でもあり、試行錯誤しながらの外部からの雇用でしたが、人の入れ替わりはあったものの、現在は従業員4名とパート1名が萩原牧場で働いております。従業員4名のうち3名は地元静岡県出身で、1名は関西出身とのことです。この4名のうち2名は新規就農希望者とのことです。

従業員は1か月25日出勤でローテーションを組んでいます。

従業員の担当部署は決められておらず、各自がまわりの動きを見て、人手の足りないポジションに入るというシステムになっています。従業員からも、萩原牧場で働くと、酪農の一通りの作業を体験できて勉強になるとの声が聞かれました。いつからか、従業員だけでのミーティングが行われるようになり、今では、自主的に提案も出て、萩原牧場の経営に大きく貢献しています。

また、従業員が入り大きく変わったこととして、乳牛の事故が減ったそうです。以前は夫婦2人で経産牛80頭を管理しながら子育てもしていたこともあり、牛の観察が十分出来なかったのですが、現在は時間と人に余裕ができ、発情発見や調子の悪い牛に誰かがすぐに気づいて早期に対応できるようになったことで、人件費はかかるものの、それ以上に経営に良い影響が出ているそうです。

時間に余裕ができたことで、萩原さんご夫婦は、最近は仕事を従業員に任せて、夫婦2人でお出かけをしたり、お酒を飲みに行ったりというゆとりのある生活を満喫しているそうです。

チーズ作りへの取り組み

子供たちも巣立っていったこともあり、このたび築100年の住宅の母屋をリフォームし、宿泊施設として利用できるようにしました。

奥さんは、ここで近く体験チーズ作り教室を始め、将来的には農家民宿にすることも検討しています。

これからは、自分の生乳で消費者とつながっていきたい、とのことでした。

▲ 搾乳を従業員に任せてリフォームしたキッチンで談笑するご夫婦

最後に

今後の目標を伺うと、さらなる出荷乳量の増加や乳質改善にも取り組みたいとのことでした。また、数年後には法人化も検討しているとのことです。そのほか、搾乳ロボットにも興味を持っているとのことで、時々ロボットを導入した酪農家へ視察にも出かけているとのことでした。

萩原さんに現在の酪農環境についての要望を聞いたところ、新規就農する際の初期投資などのハードルが高いので、行政で負担軽減できないものかと希望されていました。

最後に、「萩原牧場のいまがあるのも浜名酪農業協同組合の仲間のおかげ」と仲間への思いもおっしゃっておられました。

取材当日は、静岡県の梅雨明け翌日ということもあり、日差しも強く暑い1日でした。牛舎の暑熱対策にお忙しいところ快く取材に応じていただいた萩原さんご夫婦に感謝し、今後の萩原牧場の発展を願いつつ帰路につきました。

全酪

Heart Farm
ハートファーム

Selection

Heart Farm チーズ 225g
内容量 ： 225g
包装形態 ： 30個／ケース
賞味期限 ： 360日

Heart Farm 6P チーズ
内容量 ： 108g
包装形態 ： 12個／ケース
賞味期限 ： 180日

Heart Farm
とろけるスライスチーズ 7枚
内容量：126g（18g×7枚）
包装形態：12個×2
賞味期限：180日

Heart Farm
スモークチーズ 120g
内容量 ： 120g
包装形態 ： 30個／ケース
賞味期限 ： 180日

Heart Farm
スライスチーズ 7枚
内容量：126g（18g×7枚）
包装形態：12個×2
賞味期限：180日

全国酪農業協同組合連合会

ご用命は
酪農部 03-5931-8008 札幌支所 011-241-0765 仙台支所 022-221-5381
名古屋支所 052-209-5611 大阪支所 06-6305-4196 福岡支所 092-431-8111

2016年度 全酪協会の海外酪農研修

第24回

2015年
ロイヤル・ウィンター・フェアにて

海外の酪農事情を知る絶好の機会。
ナイアガラの滝や、サンフランシスコ、トロントも訪れます。

ロイヤルウィンターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 7日間

旅行期間

2016年11月9日(水)～15日(火)

※ロイヤル・ウィンター・フェアの日程が未発表のため
出発日など変更になる可能性があります。

※掲載写真はすべてイメージです。
※撮影時のアングル、天候などの諸条件により、実際とは異なる場合があります。

お問い合せ
企画・監修 一般社団法人 全国酪農協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-20(酪農会館ビル)
TEL.03-3370-5341 FAX.03-3370-3892
E-mail：ryokou@rakunou.org (担当:飯田)

旅行企画
実　施 JTB ㈱JTB関東

ナイアガラ・アメリカ滝

第24回

ロイヤル・ウィンターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 7日間

サンフランシスコ金門橋

旅行代金 **393,000円**（お一人様）

一人部屋追加代金：75,000円

※上記旅行代金の他に燃油サーチャジ￥14,000、羽田空港使用料（航空保安料含）￥2,570、現地空港税￥10,520、渡航手続き手数料￥4,320、合計目安￥31,410が別途必要になります。「2016年2月現在」その他米国・カナダの電子渡航認証システム実費：米国$14、カナダ$7、代行取得手数料各￥2,160（希望者のみ）が必要となります。

旅行期間 11月9日（水）～11月15日（火）7日間

※ロイヤル・ウィンター・フェアの日程が未発表のため出発日など変更になる可能性があります。

食事条件 朝食5回、昼食2回、夕食4回

発 着 地 羽田空港発・成田空港着　**最少催行人員** 20名

参加申込締切日 2016年9月26日（月）

＊添乗員及び全酪協の世話役が同行します。

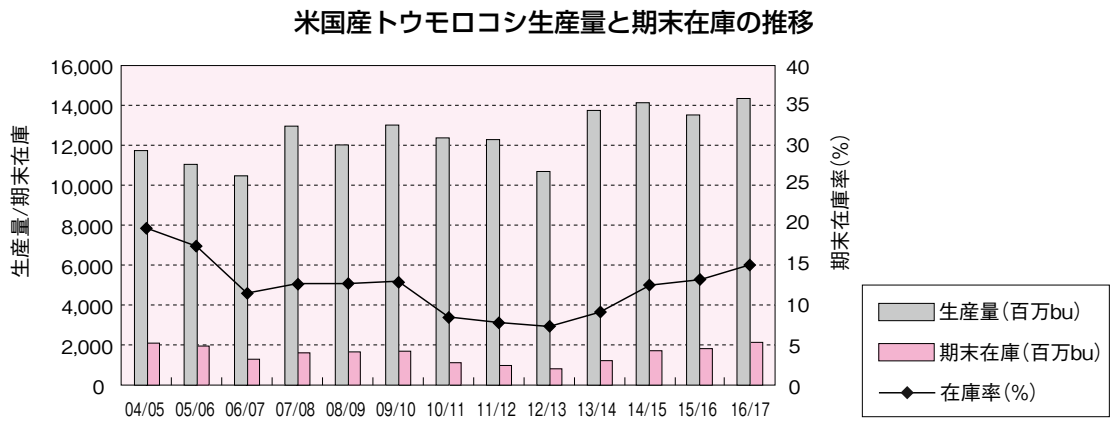
カナダのトロントで開催される世界最大の酪農業博覧会「ロイヤル・ウィンター・フェア」を視察。カナダと北米全域から集められた様々な農産物の展示、品評会や競売が行われ、ドッグショウや馬術競技、ロデオ等動物による競技も行われています。その中で行われるナショナルホルスタイン・チャンピオンショーを視察します。また、サンフランシスコにあるチーズ工場も訪れます。この機会に是非、米国・カナダの酪農をご覧ください。

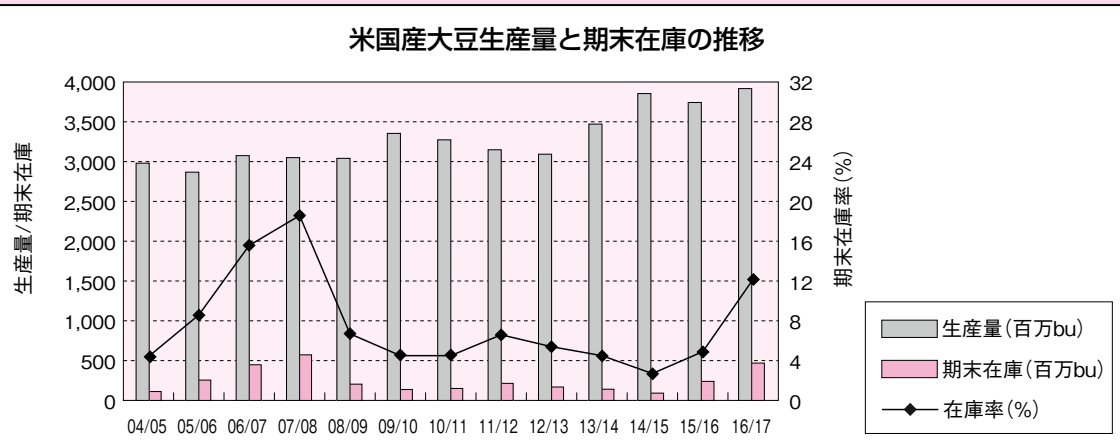
日程	月 日	都 市 名	現地時間	交通機関	スケジュール	食 事
1	2016 11／9(水)	羽田空港集合 羽田空港発 トロント空港着 トロント市内	16:20頃 18:50 16:45	ＡＣ００６ 専用車	羽田空港ご集合 空路、航空機にてカナダ・トロントへ（所要時間約11時間55分） トロント着後、ホテルへ、現地日本語斡旋員出向かえ ホテルチェックイン。ホテル内にて夕食 《トロント泊》	朝：× 昼：機内食 夕：○
2	11／10(木)	ナイアガラ トロント	午前 午後	専用車	**午前：ナイアガラ観光**（ホーンブロワー・ナイアガラクルーズ） 専用車にて視察先へ **サミットホルム農場視察**　視察後、専用車にてホテルへ ※時間に余裕があれば、 **トロント市内観光** （CNタワー・市庁舎・ショッピング等）市内レストランにて夕食 《トロント泊》	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	11／11(金)	トロント	終日	専用車	**Royal Agricultural Winter Fair** 世界最大級の室内農業カンファレンス ※現地通訳と同行致します。 視察終了後、専用車にてホテルへ 市内レストランにて夕食 《トロント泊》	朝：○ 昼：× 夕：○
4	11／12(土)	トロント トロント発 サンフランシスコ着	朝 08:00 10:39	専用車 ＡＣ７３７ 専用車 17:30頃	ホテルより空港へ 空路、サンフランシスコへ **サンフランシスコ市内観光**　フィッシャーマンズワーフ、ツインピークス、ゴールデンゲートブリッジ等 観光終了後、ホテルへ 夕刻　全酪連　サンフランシスコ所長による説明及び懇談会 《サンフランシスコ泊》	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	11／13(日)	サンフランシスコ	午前 午後	専用車	**午前：ヒルマーチーズ工場視察** 午後：自由行動 《サンフランシスコ泊》	朝：○ 昼：× 夕：×
6	11／14(月)	サンフランシスコ サンフランシスコ発 バンクーバー着 バンクーバー発	早朝 07:00 09:20 13:50	専用車 ＡＣ５６１ ＡＣ００３	空港へ 空路、帰国の途へ バンクーバーにて乗継 空路にて、東京（成田）空港へ（所要時間約9時間50分） 《機内泊》	朝：○ 昼：機内食 夕：×
7	11／15(火)	成田空港着	16:30		成田空港着後、通関し解散	朝：機内食

※視察先は全て予定となります。また上記日程は、現地事情・交通機関の都合等により変更になる可能性がございます。
※利用予定航空会社：カナダ航空（AC）　※利用予定ホテル：〈トロント〉シェラトンセンタートロントホテル、〈サンフランシスコ〉ヒルトン　サンフランシスコ　ユニオンスクエア

原料情勢 平成28年7月

7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億100万bu、総需要量136億9,200万bu、期末在庫17億100万bu、在庫率12.4%　需要面で増加し、期末在庫は減少した。
	【16/17年産】 作付面積94.1百万エーカー、単収168.0bu/エーカー、生産量145億4,000万bu 、総需要量142億bu、期末在庫20億8,100万bu、在庫率14.7%　需要供給両面で増加、期末在庫は増加した。
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは米国産地で高温乾燥の見通しが出され堅調に推移していたが、その後降雨により作柄悪化懸念が後退すると大幅に値を下げた。英国のEU離脱が発表されると商品先物市場は全般的に下落。四半期期末在庫は、市場予想を上回る在庫量、作付面積であったためさらに下落。今後のシカゴ相場は今回の発表でも単収は据置のままであった。また米国の輸出量は南米の不作の影響を受け堅調に推移している。
7月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積83.7百万エーカー、単収46.7bu/エーカー、生産量38億8,000万bu 、総需要量39億7,000万bu、期末在庫2億9,000万bu、在庫率7.3%　需要供給両面で増加し、期末在庫は増加。
大豆粕相場動向	米国産は、ほぼ市場予想に近い数字。ここ最近の売られ過ぎ感から買い戻しが入ったこと、米国中西部における高温乾燥が続くとの予報から前日比+24¢1/2UPの1,107¢1/4（7月限）で当日の取引終了。国内産は7－9月期はシカゴ相場・原料大豆価格の高騰を受け、大幅な値上げ。現在、菜種との搾油採算は同程度となっている。輸入品は中心となっている中国品が同様原料大豆価格の高騰を受け大幅に値上げ。シカゴ相場4月以降、アルゼンチンの豪雨、ブラジルの旱魃、北米の高温乾燥など収量下落懸念から大きく値上げ。天候次第ではさらなる相場上昇の可能性があり。
糟糠類	【一般フスマ】フスマは小麦粉の価格の影響（値下げ）で取り控えられていたものが回復しており、7月以降一時的に増加傾向にあるが、経時で例年並みの発生量に戻る見込み。需要は鶏豚を中心に前期大幅に値を下げたグルテンフィードに置換している状況が見られ減少傾向。
	【グルテンフィード】国内では季節的な要因からコーンスターチ、異性化糖の需要が増加。グルテンフィードの発生量は増加傾向。また前期の大幅値下げを受け、他の蛋白原料や同じ糟糠類のふすまとの置換が進み飼料需要は増加している。一方、輸入は中心となっている中国品の価格が上昇している影響を受け、日本向けの輸入は抑えられている状況。これらの状況を受け需給は締まり、相場は強含みで推移するものと思われる。
海上運賃	大西洋水域では引き合いが強く市況を押上げた。船腹量の増加率は過去5年平均の半分程度まで抑えられた一方、スクラップ量は1.5倍となっており、船腹余剰感は解消に向かいつつある。南米東岸、太平洋でも引き合いが散見されている事から市況は堅調に推移していくと思われる。





輸入粗飼料の情勢 平成28年7月

北米コンテナ船フレート	北米発アジア向けの海上運賃については、相変わらず船腹に余剰感があり、特に輸出貨物が多い日本の主要港では輸出用空コンテナを得るために、北米からの海上運賃の競争は継続している状況です。
ビートパルプ	【米国産】新穀の作付は、5月中旬に全域で終了しています。作付後の天候は良好で、全体としてこれまでのところ順調な生育環境と言えます。 製糖作業については、昨年、安価なメキシコ産の米国への流入が政治的な決着により止まったため、米国内で一時的に砂糖の需給が逼迫した影響で、砂糖の生産を急ぐ必要性があり、例年よりも2週間ほど早い8月20日頃に生産が開始されました。今年に関しては、昨年のような要因はないため、生育が順調に行けば例年並みの9月1週目の生産開始となる見込みとなっています。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地のコロンビアベースンでは1番刈の収穫作業はすべて終了しています。5月中下旬の降雨により、多くの圃場で雨あたりが発生しており産地全体でおよそ70～80%程度が何らかの被害を受けたようです。このため、昨年に引き続き雨あたりのないプレミアム品の発生は例年に比べ少ない状況です。品質については、天候を優先させ作業を進めたことで、全体的にドライな仕上がりとなっています。産地では現在、2番刈の収穫が進んでいます。気温は、昨年と比べると低めに推移しており、異常な高温が続いた昨年のような低成分の発生は多くはなさそうです。一方で、不安定な天候のために2番刈の序盤にコロンビアベースン南部で降雨被害が発生している圃場も出ているようです。
	【オレゴン州】主産地のクラマスフォールズ及びクリスマスバレーでは1番刈の収穫作業が進んでおり、刈取り作業は80%程度終了しています。降雨被害が出ているという情報もありますが、ごく一部の地域のようで今のところ期待できる作柄と言えそうです。
	【カリフォルニア州】カリフォルニア州北部から中部では現在3～4番刈の収穫が行われています。1番刈ではおよそ90%が降雨被害を受けましたが、徐々に天候も安定しはじめ、状況は好転してきているようです。 南部インペリアルバレーでは4番刈の刈取りが終盤を迎えており、早い圃場では5番刈が始まろうとしています。産地価格は中国、韓国を中心に、また一部中東勢が積極的な買い付けを行っており当初の予想に反し、やや強含みで推移しています。また、種子の生産が昨年比2倍近く増えているとのことで、作付面積は増えているもののヘイの生産量に影響を及ぼすとの予想も出て来ています。
チモシー	【米国産】コロンビアベースン南部では5月下旬より刈り取りが開始され、早くも一番刈りの収穫が終了しています。この地域では多くの圃場で刈り取り開始から降雨被害にあわず順調に収穫を終えており、牛用の上級品が多く生産されたようです。一方コロンビアベースン北部では、収穫中の6月中旬から天候が不安定になり、雨あたり品も発生しているようです。キティタスバレーでは、6月上旬から刈り取りが本格化していましたがコロンビアベースン同様、6月3週ころに降雨があり、雨あたり品等の低級品が40%以上発生しているとの報告が出ています。
	【カナダ産】主産地であるアルバータ州南部のレスブリッジでは、総じて天候は順調に推移しており、6月下旬から一部の圃場で刈り取りが開始されたようです。同時期に一部地域で降雨も観測されたようですが、その後の天候は比較的安定しているとの予報もあり、徐々に収穫作業は本格化してくると思われます。 アルバータ州中部のクレモナでは、6月に2回のまとまった降雨がありました。ただ、例年に比べるとまだ降水量は少ないようで、今後の生育状況を注視する必要がありそうです。当地域での刈り取りは7月2週ころからと予想されています。
スーダングラス	1番刈りの収穫は6月末時点ですでに終盤に入っています。温暖で安定した天候が続いたため、一部では早くも2番刈りが始まっているようで、例年にない早いペースで収穫が進捗しています。 6月15日時点のインペリアルバレーの作付面積は、38,130エーカーとなり昨年同期比で約8%減少となっています。産地相場の冷え込みから、生産農家の作付意欲は高まらず、早播きが激減した昨年のピーク面積にも及ばない結果となっています。また、2番刈まで生産する農家は、全体の70－80%と言われており、全体の生産量が今後の天候とともに注目されます。 産地相場は収穫開始時点では前年に比べ軟化していましたが、6月中旬ころから一部のサプライヤーが買付けを進め産地価格はやや反発しました。その後は落ち着きを見せているようですが、今のところ収穫開始当初のような軟化の傾向は見えません。
クレイングラス	**クレインは全酪連の登録商標です。**クレイングラスの1番刈りは終了しており、2番刈りも終盤を迎え一部圃場では3番刈りも徐々に始まっています。2番刈以降は生育・収穫の環境は良好と言えます。 6月15日時点の作付面積は15,262エーカーで昨年より約5%の減となっています。スーダンと同様に産地相場の軟化により、生産農家の意欲は減退しており、早い圃場では2番刈で生産と終了するところも出てきそうです。16年産のインペリアルバレー全体の生産量は前年比で20%程度減少と予想するサプライヤーもおり、今後の産地相場に影響してくるものと思われます。また、引き続き韓国からの引き合いも旺盛で産地相場への影響は避けられない状況となっています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーではアニュアルライグラスとフェスクの刈取りが始まっており、早いところでは6月下旬からベーリングが始まっています。ペレニアルライグラスは7月中旬以降のスタートとなりそうです。
オーツヘイ	各地域では播種を終え順調に生育が進んでいます。各州の作付面積は、概ね例年並みとの予想です。西豪州の6月の降雨量は、平年と比較すると6割程度でしたが、4－5月に十分な降雨があったことから今のところ土壌の水分等に問題は無いと見られています。南豪州・東豪州では平均と同程度、地域によってはそれ以上の降雨もあり、オーストラリア全体で見ても生育は順調に進んでいると思われます。

生乳受託販売乳量

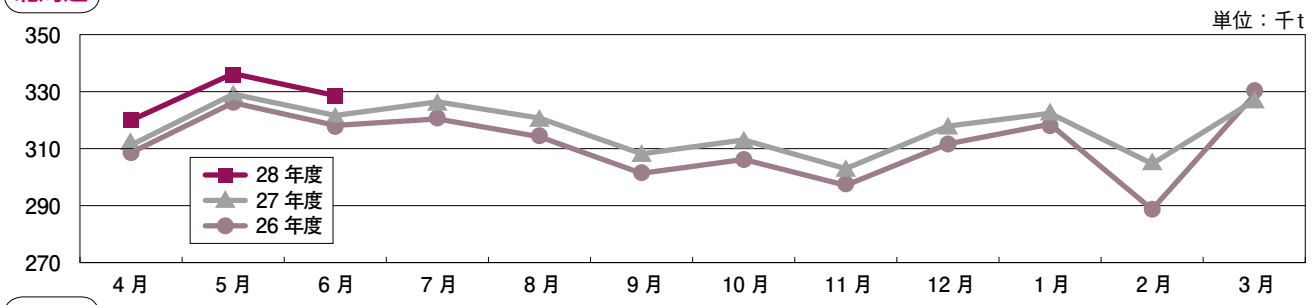
受託販売乳量

全国　602,961t で、前年同月比　1,596t(0.3%) 増加

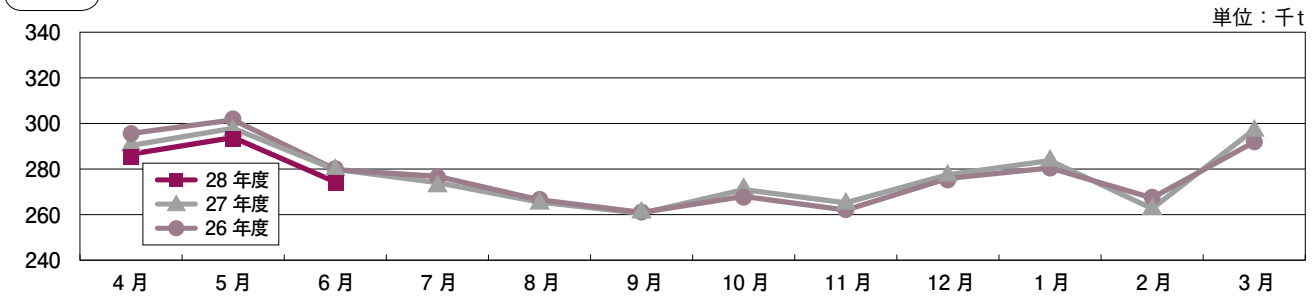
都府県 274,334t で、前年同月比　5,380t(1.9%) 減少

北海道 328,627t で、前年同月比　6,976t(2.2%) 増加

北海道



都府県



用途別販売数量

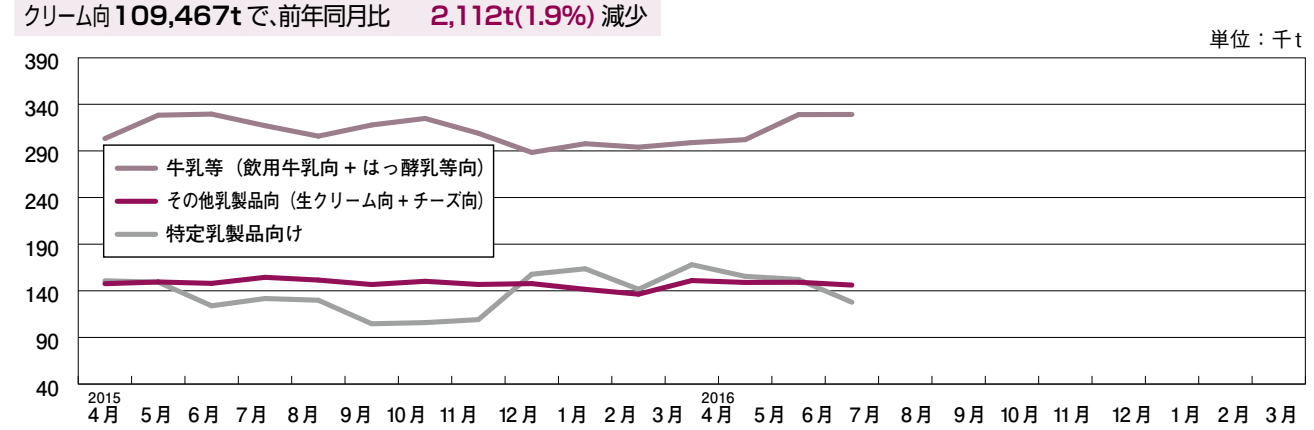
飲用向　289,381t で、前年同月比　619t(0.2%) 減少

チーズ向　36,672t で、前年同月比　284t(0.8%) 増加

はっ酵乳向　39,693t で、前年同月比　204t(0.5%) 増加

特定乳製品向 127,748t で、前年同月比　3,839t(3.1%) 増加

クリーム向 109,467t で、前年同月比　2,112t(1.9%) 減少



各地の需給動向

【東北】生産は、前年比 98.9%。発酵乳中心に乳業者の処理は好調。飲用牛乳向け 98.5%。はっ酵乳等向け 110.4%、特定乳製品向け 88.8%。

【関東】生産は、前年比 98.1%。生産は、厳しい見立てとおりに推移し、下旬は 98%を割り込んだ。乳業者処理は月間通して堅調に推移。飲用牛乳向けは 99.1%、はっ酵乳向け 97.5%、特定乳製品向け 92.5%。

【東海】生産は、前年比 97.9%。生産はトレンド程度の推移となっている。乳業者処理は、全体的に堅調に推移した様子。飲用牛乳向けは 97.8%、はっ酵乳等向けは 101.6%、加工向けは 77.0%。

【近畿、中国、四国】生産は、中～下旬にかけての暑さにより想定以上に減少した。近畿 98.0%、中国 100.2%、四国 99.2%。乳業者の処理は好調に推移し、飲用牛乳向けは近畿 97.9%、中国 102.1%、四国 101.1%となった。

【九州】生産は、当初 97.1%見込みも下旬の暑さの影響から 96.8%まで減少した。九州内の乳業者処理は、前半やや不調の推移であった。飲用牛乳向けは 96.5%、はっ酵乳向け 99.0%、特定乳製品向け 95.2%。

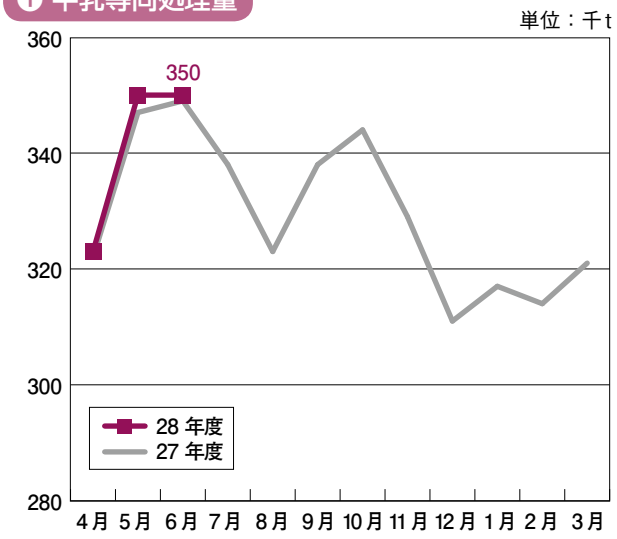
用途別生乳処理量

単位：千t

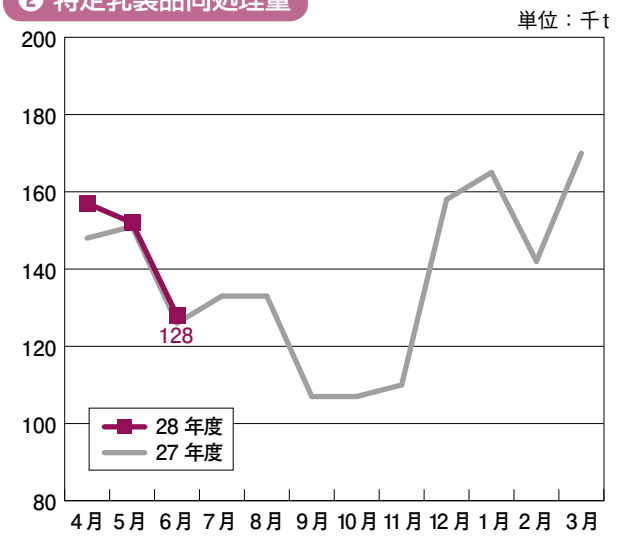
年月	生乳生産量	用途別処理量計		乳製品向		その他乳製品向			年月	生乳生産量	用途別処理量計		乳製品向		その他乳製品向		
			牛乳等向①		特定乳製品向②		クリーム向③	チーズ向④				牛乳等向①		特定乳製品向②		クリーム向③	チーズ向④
2015. 4月	625	620	322	298	148	150	114	37	2016. 4月	633	626	323	303	157	145	108	37
5月	649	644	347	297	151	146	109	37	5月	653	649	350	299	152	147	108	39
6月	625	620	349	271	126	145	107	38	6月	626	622	350	272	128	143	105	38
7月	629	624	338	286	133	153	110	43	7月								
8月	608	604	323	281	133	148	107	41	8月								
9月	593	588	338	250	107	143	107	36	9月								
10月	603	599	344	255	107	148	111	37	10月								
11月	588	584	329	255	110	146	110	36	11月								
12月	620	616	311	304	158	147	109	37	12月								
2016. 1月	627	623	317	305	165	140	101	39	2017. 1月								
2月	595	591	314	277	142	135	100	35	2月								
3月	644	639	321	318	170	148	109	39	3月								
年度計	7,407	7,352	3,953	3,398	1,649	1,749	1,295	455	年度計	1,913	1,897	1,024	873	438	436	321	114

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

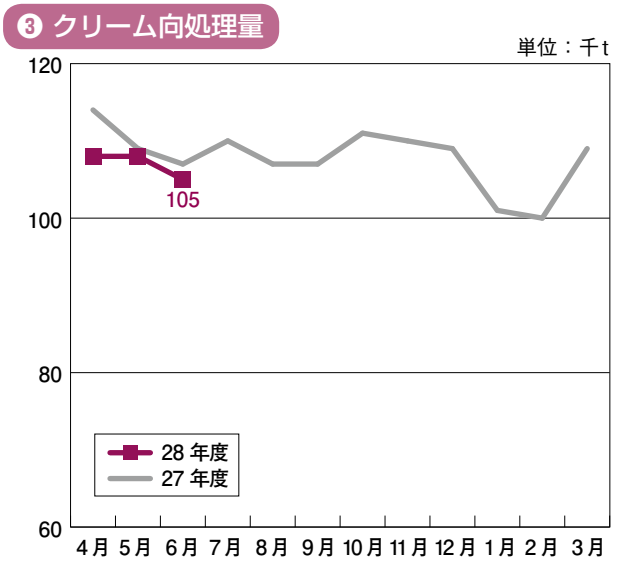
❶ 牛乳等向処理量



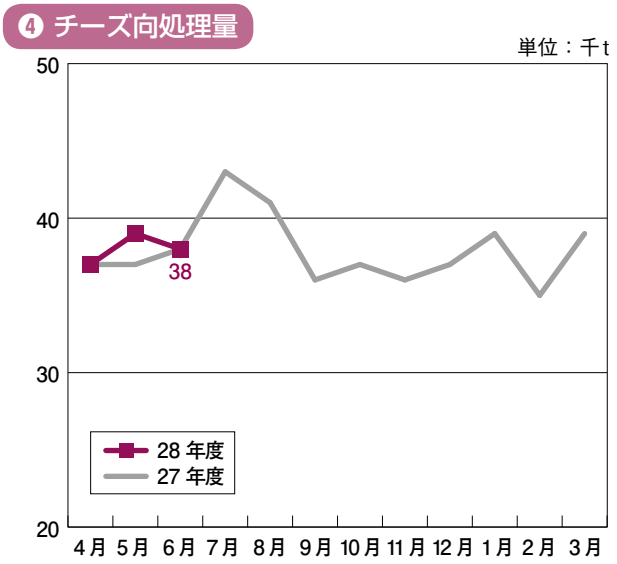
❷ 特定乳製品向処理量



❸ クリーム向処理量



❹ チーズ向処理量



人事異動

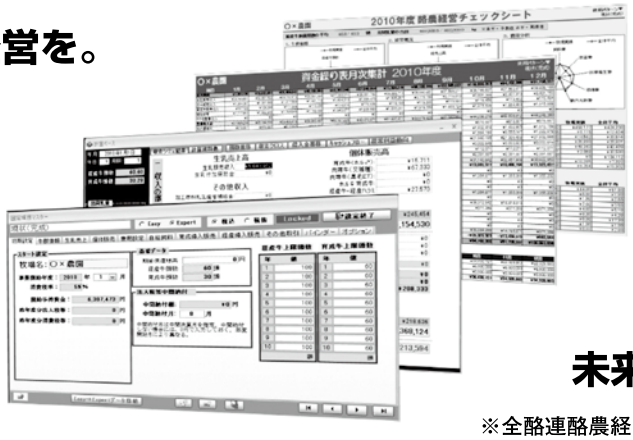
新		旧		氏名
■平成28年8月1日付異動発令				
指導・企画部	企画課長	管理部	管理課長	丸山 惣太郎
管理部	副部長 兼 財務課長	管理部	副部長 兼 経理課長	松永 明久
管理部	経理課長	管理部	財務課長	佐藤 一昌
管理部	管理課長代理	大阪支所	近畿駐在員事務所長	吉永 順一
札幌支所	帯広事務所長代理	福岡支所	購買推進課　副審査役	佐々木 俊介
大阪支所	近畿駐在員事務所長代理	購買部	購買推進課(大阪支所勤務)　副審査役	蔦谷 晃
購買部付出向	全国酪農飼料㈱東海工場　(次長待遇)	購買部付出向	㈱日本ミルクリブレイサー　(次長待遇)	三浦 徳逸
■平成28年8月1日付兼務発令				
管理部	副部長 兼 関連事業室長 兼 管理課長	管理部	副部長 兼 関連事業室長	内海 安則
大阪支所	支所長 兼 指導組織課長	大阪支所	支所長	荒木 泰將
大阪支所	購買畜産課長 兼 近畿駐在員事務所長	大阪支所	購買畜産課長	河野 巧
■平成28年8月1日付昇進発令				
指導・企画部	指導組織課長	指導・企画部	指導組織課長代理	吉村 薫
購買部	飼料製造課長代理	購買部	飼料製造課長代理　(所場課長代理待遇)	下井 泰隆
札幌支所	次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	札幌支所	総務課長 兼 指導組織課長	坂口 雅史
購買部付出向	全国酪農飼料㈱鹿島工場　(所場課長待遇)	購買部付出向	全国酪農飼料㈱鹿島工場　(所場課長代理待遇)	朴 眩鳳

酪農家経営管理支援システム(DMS システム)

Dairy-farm Management Support System

自分の牧場の10年後をイメージできますか?　まずは、現状の把握から始めてみましょう。
DMSシステムでは、青色申告書を元に経営分析を行っています(無料)。
お気軽に声をかけてください。

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは ①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会　酪農生産指導室 TEL 03(5931)8007

北海道 乳牛産地情報

平成28年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45～55	→	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計99.1%、累計で98.7%、苫小牧管内月計で96.9%、累計で98.0%の実績となっております。 8月の札幌管内の初妊牛動向は、10月～11月上旬腹の分娩腹が中心となります。例年並みの資源状況となっておりますが、道内の購買客の動向により大きく相場が動く特徴がある地域のため、他地区の相場状況により高騰や急落することがあります。腹内容としてはF1がメインとなっており、性選別腹は酪農家からの出品が中心となります。
	初妊牛	58～65	↗	
	経産牛	50～55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	45～55	→	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.6%、累計で104.4%、中標津管内月計で101.8%、累計で102.3%の実績となっております。 8月の釧路管内の初妊牛動向は、10月～11月分娩腹が中心となります。道内大型牧場の導入意欲が強い事や、新規就農者向けの導入が始まる事などから引き続き道内の活発な動きが予想されると共に、秋分娩腹が動く時期となり都府県の導入希望も増える事から相場はしだいに強含みで推移すると思われます。
	初妊牛	65～72	↗	
	経産牛	50～55	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45～55	→	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.7%、累計で104.1%の実績となっております。 8月の帯広管内の初妊牛動向は、9月下旬～10月の秋分娩腹が中心となってまいります。依然として道内の大型農場の導入は続いており、秋に向けて都府県の需要も回復してくることを踏まえると、価格は堅調に推移するものと思われます。育成牛の価格も高値を維持しており、今後の初妊牛相場は再び、高騰するものと思われます。夏の暑い時期ではありますが、暑熱対策が十分に取れる方はお早目の導入をお勧めいたします。
	初妊牛	60～68	→	
	経産牛	52～58	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	45～55	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.5%、累計で102.1%、北見管内月計で100.8%、累計で100.6%の実績となっております。 7月の各市場を見ますと夏季分娩中心で、上物は売買が成立しましたが、裾物は価格不安定で主取りも多く販売不成立の牛が多々おりました。しかし8月の初妊牛購買動向は10～11月中心となり資源減少の中、都府県の需要及び道内大型牧場の需要が増えることから、個体差に関係なく幅広い需要が予想されることから、価格も横這いから強含みへと推移すると思われます。
	初妊牛	65～68	↗	
	経産牛	45～50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	45～55	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で102.3%の実績となっております。 8月の道内の初妊牛動向は、10月～11月分娩腹中心で取引されます。新規就農、規模拡大等にみられる大型導入の引合いも強く道内外から多くの需要が予想されます。そのような事から、価格的にも前月に引き続き堅調に推移するものと思われます。盆明け以降は、気候も涼しくなり都府県の導入が活発になってくる季節となりますので、早めのご注文をお待ちしております。
	初妊牛	63～70	↗	
	経産牛	52～58	→	

※上記相場は、血統登録牛（中クラス）の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

ぺろーん!いただきまーす♡

今月の表紙は、「第7回酪農いきいきフォトコンテスト」（第45回全国発表大会にて開催）で特選に輝いた作品「ぺろーん！いただきまーす♡」（埼玉県 吉田尚子氏　撮影）です。

編集後記

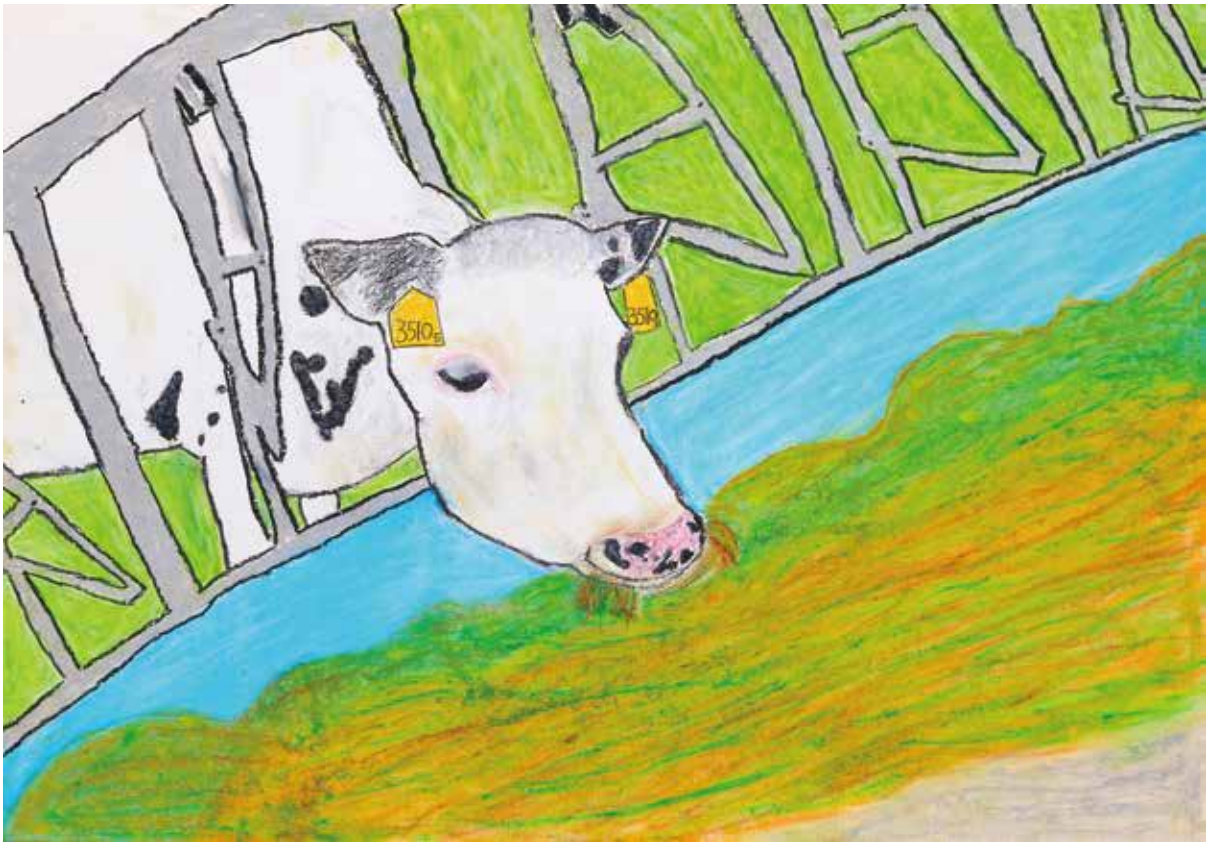
▼7月14日、15日に名古屋市にて第45回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国各地から約520名もの方にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。発表いただいた皆様を始め、ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成28年8月10日発行（毎月1回10日発行）
ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION
全酪連会報　8月号　No.611

●編集・発行人　大森 一幸
●発行　全国酪農業協同組合連合会
〒108-0014　東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003
http://www.zenrakuren.or.jp/



もりもりえさを食べる牛

美祢市立秋吉小学校（西日本）4年　土山 希望

今月の らくのうこども ギャラリー 入賞作品紹介

今月の入賞作品は、美祢市立秋吉小学校（西日本）4年の土山 希望さんの作品です。柵から顔を出してえさを食べる牛さんが描かれた作品です。柵の固い直線に対して牛さんや草のやわらかな曲線の対比が見事です。特に草の部分は幾層も色が重なり合い絵に深みが出ています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第43回らくのうこどもギャラリー」で全国674点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議